(川内北) 令和コミュニティトーク 要約

日 時：令和5年10月21日（土） 13：30～14：31

場 所：中央公民館 ホール

出席者

市：田中市長、永田副市長、未来政策部長、市民安全部長、市民安全部次長他
地域：川内北中校区の3地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民27名
(合計43名の参加)

1 地区振興計画について

【亀山地区】

亀山地区においては、今日と明日、文化祭を行って、盛大に活動している最中である。

5期の振興計画について、過去3年間振り返ってみると、コロナの影響で、事業自粛という形で細々とやってきたが、特に自治会の行事が、コロナを機にもうしないという方向で、非常に縮小している。これからの活性化に向け、一丁目一番地である亀山地区コミュニティ協議会の地域の活性化と安心、安全なまちづくり、これに向けて日々取り組んでいるところである。

今までは夏祭りとか大勢の人数を主体にやってきたが、これからは、大人数ではなく適正な規模で進めていきたいと思っている。

先ほど言ったように、本日は文化祭を行っている。子どもたちから幼稚園、小学校、中学生、いろんな活動をしているが、それと地区コミュニティ協議会には、自主学級生が18のグループで活動している。例年は、発表会までやるが、コロナの影響がまだ少しあるということで、展示のみという形で行っている。幼稚園児や小学生、中学生の力作が、たくさん展示されているのを見ると、非常に頼もしく感じている。

学校と家庭、地域これが一体となって、子どもたちを取り込んだ形のコミュニティづくりが大事だと思っている。小学5年生を対象にした米作り。中学生を巻き込んだボランティアの清掃活動、農作業の体験ということで、川内北中の職場体験として、生徒5名が来てくれた。

そこで取り組んでいるのは、食の教育。なぜかと言うと、地球温暖化の影響で災害が多発している。亀山の子どもたちには、かまどご飯の炊き方と味噌汁の作り方だけは、徹底して教え込んでいる。子どもたちも、火の扱いに気を付けながら、食の大切さを学んでいると思っている。

メインは収穫祭。4、5年前までは、自治会が主体になって餅つきをやっていたが、高齢化、仕事など、いろんな面で忙しい、体力的にも厳しいということで、今は中学生の部活を中心にやっている。これが非常に大好評であり、衣食住、その中でも食に関心を持っていただいて取り組んでいるところである。

5期の5カ年計画においても、地域の活性化と安心、安全なまちづくりとして、

コミュニティ協議会に7つの部会があるが、安全パトロールや子どもの見守り隊、こういうものにも力を入れていきながら、現在やっていることを、もっと深めていくため、次の5カ年計画に向けても継続できるよう検討を進めている。自分たちのことは自分たちで、解決する形を作りたいとして、三役の方でも検討し、取りまとめているところである。

【可愛地区】

第4期、令和元年度から令和5年度まで、コロナの影響で動けなかったが、私どもは元年に組織の再編を行い、今年度までやってきている。

本部体制の確立として、まず本部の体制をしっかりとやるということで、主事プラス職員を2人構えて、本部体制がしっかりとしないと、各部の指示系統ができないということから、7つの部と共に活動したが、令和2年度は、ほとんど活動できなかった。3年度、4年度、徐々に回復して動いてきた。コロナ、コロナと、言っている場合じゃないということで、活動も少しずつ回復し、もう完全に回復の傾向になった。

そこで、第5期の地区振興計画には、計画中であるが、1点目は、自治会の合併という問題については、これは継続事業として引き続き力を入れていきたいと思っている。

2点目は、太平橋関係に、力を入れていきたいと思っている。街歩きも当然ながら、明治初期に阿蘇鉄矢が作られた太平橋については、来年、再来年に、150年になるということで、現在の太平橋は第6代目になる。第4代目の太平橋については、アーチ形の橋で、モダンな橋であったが、その親柱というのが、可愛小学校に2つ校門になっている。あと2つは、樋脇地域にあるやとも聞いているので、こういった太平橋の4代の親柱を、1カ所に集めて、太平橋PRしようというような考えもある。

あと1つは、この5年先、10年先は、想像を絶するような時代になっているだろうと思う。その1つが、デジタルを利用した通信技術である。市のDXコースの補助金を利用してもらいながら、プロジェクトチームを立ち上げたい。産官学、大学の教授や行政の力も借りて、このICTの力を手に入れて、11000人の住民がコンピューターで結ばれ、情報をお互いに共有しながら、やっていく。自治会も含め、いろんな病院も学校も、結ばれていく。アプリを立ち上げて、一元化した情報交換をしていければと思っている。5年先に向かって早速立ち上げていきたいと思っているので、行政の方のお力添えをお願いしたい。

以上、3項目、まだまだあるが、とりあえず3つの項目を挙げさせていただいた。

【育英地区】

育英地区の人口は、9月1日現在、約2400世帯、約5120人。65歳以上の高齢化率は、昨年より0.4パーセント上がって、19パーセント。75歳以上は、9.8パーセントと、市で1番若いことがわかった。

第4期地区振興計画を振り返って2点述べる。健康で安心して暮らせるまちづくりとして、防犯対策は重要な役割がある。地域ぐるみの防犯体制を確立するため、

自治会ごとに防犯灯設置などの環境整備や青パト隊を中心に、地区内の巡回を実施した。また、育英地区の自治会加入率は、63.86パーセントと市でワーストワンである。そのため「自治会に加入しましょう」ののぼり旗を急遽10カ所設置した。コロナ禍で実施できなかった行事のうち、夏祭りについては、地域の活力やつながりを取り戻すため、4年ぶりに7月29日に実施した。まちづくりの目標である災害に強く、安全、安心で住みよいまちづくりの実現のため、地域の皆さんの声を聞きながら、地区のまちづくりに努めた。

第5期地区振興計画の重点3項目の説明について、まず1点目、安全安心なまちづくりについては、災害の原因となる台風や集中豪雨等の自然災害が発生した場合に備え、危険と思われる川内川堤防及び中郷川などの洪水危険箇所について、地元の方の話を伺いながら点検を行う。過去に浸水被害が発生した箇所、浸水の恐れがある箇所の堤防強化対策を行政に強く要望し、内水被害の改善を図る。育英地区管内の銀杏木川の道路の冠水する箇所は、博善社際の橋から上流約500メートル区間で、横断的には国道267号までの300メートルまでの左岸側の範囲である。この地区の周囲は、ほぼ住宅街である。排水路の6本は全て銀杏木川に接続しており、1時間あたり20ミリ以上の雨が降ると、河川水が1メートルぐらい上がる。上がると自然排水ができなくなり、道路は膝上まで度々冠水している状況である。ついては、水道局付近の改修工事を強く要望する。参考までに、つい最近の大雨の警報が発生されたのは、7月3日月曜日13時16分だったが、この時最大、降雨量は26.5ミリだったが、このような雨の中でも道路が冠水した。

2点目、生き生きと活力あるまちづくりについては、毎年11月に文化祭を開催している。昨年は展示のみだったが、地域住民が製作した作品の展示や日頃の活動の成果を発表する場を提供することにより、地域住民の文化事業に対する理解や関心を深め、生涯学習に対する意識の向上を図ることができた。作品を展示し、活動の紹介とともに、育英地区の人と文化の交流を図る。また、地域の連携を高めながら、交流や運営づくりの活動の輪を広げることとし、活力のあるまちづくりを目指す。

3点目、環境の美しい街づくり。中郷上池周辺には紫陽花、彼岸花、菖蒲、それぞれのゾーンがあり、すでに繁茂している状況である。毎年4月から10月に、住民参加のもと、草刈り、清掃、空き缶等を回収しながら紫陽花、彼岸花、菖蒲、その都度、美しい花の手入れを努めている。市景観百選の中郷上池の保護を図っていく。

市長コメント

地区振興計画はコミュニティ制度ができた18年前から5年計画で、自助、共助を中心に作っていただいている。これまでの5年間の成果と課題があったが、特に過去5年間は、令和2年からコロナ禍で、なかなか全市的に十分な活動がしにくかったことは、報告の通りである。

しかしながら、その中でも亀山地区のように、適正な規模の中、子どもたちを中心に、あるいは食を中心に、地道に活動をされた。3地区については、公私にわたり訪問し、いろんな活動をつぶさに見ている。

今後の方向性も含めて、亀山地区の会長からあったように、コミュニティの組織と、イベントの持続性、循環というSDGsの言葉が出てきて非常に嬉しく思う。

市役所も自治組織もこのような考え方で地域づくりをしていかなければならないと意を強くした。

それから、可愛地区の会長からあったように、特に自治会の合併の問題。後ほど自治組織の見直しで報告するが、48地区コミュニティ協議会に共通した大きな課題だと思う。合わせて可愛地区の会長からあったように、ICT、DX、デジタル化の推進も、自治組織の中に具体的な行動があるということ、先ほどのSDGsと同じくうれしく思い、市と一緒にデジタル化の推進を進めていくべきだと思う。

育英地区については、会長からあったように、特に、自治会加入の問題で、市、県、全国的な問題であり、これについても後ほどの自治組織の見直しで、考え方を報告したい。銀杏木川などの安全、安心のまちづくり、文化祭の開催、中郷上池の環境美化と、3地区におかれても安全、安心な地域づくり、コミュニティの活力、コミュニティの環境美化として、過去5年間もであったが、これからもアフターコロナの、令和6年から10年、方向性を示していただいたので、市も受け止めて、一緒になってコミュニティの活動を支援していきたい。

2 市政の動向について

(1) 主な動き

令和5年度の上半期の主な動きの紹介で、時系列に、4月1日、入来麓交流館開館セレモニー、4月6日については、後ほども出てくるが、災害における福祉避難所に関する協定を締結し、市社会福祉協議会に非常用電源も設置した。

4月11日、京セラ(株)鹿児島川内工場が立地54年、昭和44年に立地したが、初めて川内港からベトナムに輸出を開始した。

4月20日は、立地協定式調印、入来の工業団地にイタックス(株)が増築した。

4月23日、洗剤等の分別、トイレタリー製品のプラスチック包装容器の分別回収を花王(株)、(株)ナカダイと一緒に育英地区も鶴峯自治会で実証実験を行っている。

4月25日、災害におけるLPガス対応機器貸与の協定を締結した。

亀山地区の会長からあったように、4月28日には、SDGs・カーボンニュートラル経済チャレンジ推進本部という市役所内の市長が本部長の組織を設置し、第1回会議を開催した。

6月8日、エコノミートークは、経済団体と市長との対話集会で、商工会議所、農協、漁協などが入り、人材確保を含めて「薩摩川内E8がんばる共同宣言」をした。これに関係し、どの産業でも人材確保、人手不足は顕著で、これと移住定住を強力に進めようと、市役所内にプロジェクトチームを設定した。これを受け、7月24日には、市、県、国、学校関係を含め、産業人材確保・移住定住戦略協議会を発足し、全市を挙げて、産業人材、担い手育成を目指している。

7月14日に戻って、市の新しい総合計画を令和7年度から10年度の計画も作っており、自治総合審議会に諮問した。

7月22日には、西回り自動車道の阿久根川内道路の決起大会を開催した。SSプラザで800名ほど集まって、運動を盛り上げたところである。

7月24日は、令和プロテクト・トーク、消防関係者との市長対話で、消防団、消防会長と意見交換をしている。消防関係も、自治組織、自治会、コミュニティと

一心同体であり、団員確保、処遇改善についての意見も出されている。

7月27日は、南九州福山通運(株)と、災害時における協定を締結した。

7月30日には、全国高等学校の総合文化祭があり、市内では、書道と吟詠剣詩舞があった。これについては、47都道府県持ち回りなので、次は47年後である。鹿児島県が1番最後であった。

7月31日には、サーキュラーパーク九州(株)と川内火力発電所跡地に、企業立地の調印をした。来年4月創業予定で工場建設に着手されている。

8月1日は、東京都内で薩摩川内港のポートセミナーを開催し、100人程度集まっていたいただき、セミナーを開催した。

8月になると、アフターコロナでスポーツ合宿も盛んになり、バレーボールの女子日本代表チームが11年目の合宿をしていただいた。

8月7日は、台風6号が襲来し、市としても対応した。私も、2日間、2泊庁舎に泊まって職員と対応した。

8月16日、4年ぶりに3部に分けて川内川花火大会が開催された。塩田知事も、去年に次いで今年もご覧になり、素晴らしいイベントとの感想だった。

8月26日、川内宮之城道路の決起大会を開催した。川内港から西回り自動車道の湯田西方インターチェンジ、西回り自動車道を通りさつま町の北薩横断道路を結ぶ25キロメートルの新しい道路を作ろうと協議会を作ったものである。

8月29日、市と友好都市である韓国昌寧郡と、子どもたちのスポーツ、文化交流を行った。コロナではほぼ3年度間、交流できなかったが、受け入れることができた。

9月2日は、薩摩川内子供大綱引で、4年ぶりの賑やかな大綱引になった。

9月20日から、新型コロナワクチンの秋開始接種が始まった。先ほど3地区コミュニティ協議会の会長から話があったように、この3年については、行動自粛が多かった。私も、来週7回目の秋接種を行うので、希望される方はぜひ、国費では最後の無料の接種であるので、積極的な接種をお願いします。

9月20日、鹿児島国体の本市開催競技の選手激励会を開催した。

9月22日、川内大綱引を4年ぶりに国道3号を占有して開催できた。コミュニティの行事も、市関係団体の行事も、今年は4年ぶりがキーワードになっているが、賑やかな大綱引であった。

10月3日は、九州航空(株)と立地協定の調印式をした。市内の大型半導体工場の拡張に伴うもので、雇用も増え望ましいことだと考えている。

最後になるが、燃ゆる感動かごしま国体が、10月7日から17日まで11日間、天気にも恵まれ素晴らしい大会だった。市内では、ホッケー、バスケットボール、ウエイトリフティング、軟式野球、空手道の5種目が開催された。おもてなし、受け入れ体制で、市民、関係団体にお世話になったことをこの場でお礼を申し上げます。

(2) 自治組織制度の見直し

自治会合併、自治会加入の促進と併せ、自治組織制度の見直しの検討をしている。

1項目は、自治基本条例の改正案を検討している。これまでの令和コミュニティトークでも出されたように、地区コミュニティ協議会と自治会の連携強化と、市民の積極的な参加促進が目的である。改正の主な内容については、市民の地区コミュニティ協議会への積極的な参加、自治会と地区コミュニティ協議会の連携についての規定を追加。改正の流れは、自治総合審議会、令和コミュニティトークのご意見も伺いながら、今年の12月議会に条例案の改正案を上程し、審議をお願いしたいと思っている。議決をいただいたら来年4月から施行する。

自治組織の見直しの2項目は、組織の次の交付金、補助金の見直し案である。概要を申し上げますと、市民、議会からも要望が出されていた地区コミュニティ協議会と自治会が管理する防犯灯の電気料金を補助する方針である。市内7千基を交付金により支援していこうという案である。

ゴールド集落関係の補助金の承継、引継ぎは、中身の金額、総額は、引き継いでいくという基本的な考え方の中で、重点支援、自主活動支援、地区コミュニティ協議会の活動、市民活動補助金の一部を交付金化、新たな補助金に移行、引き継ぐという考え方で議論をしている。その他事項で市役所の補助金は、手続きが煩雑、書類が多いとのご意見もあり、可能な限り、厳正さの中に簡略化していくことと、使途の見える化と、地区コミュニティ協議会の中の各自治会調査も、全体の仕組みが見えるような形ができないかと議論している。それから、可愛地区の会長から、自治会再編支援ということで、引き続き地区コミュニティ協議会と自治会の公費・補助金の見直しも続けている。

スケジュールであるが、令和6年度の当初予算に関わることから内容について、12月議会で説明して、当初予算としては来年3月の議会に当初予算の審議で議決をいただければ、来年4月から申し上げたものを細かく設計し、4月から施行という考え方である。

(3) 川内原子力発電所の運転延長に関する経過

アンダーラインは、市長として要望した活動実績である。

振り返って、令和3年10月に九州電力において川内原子力発電所の1号機の特別点検が開始されており、すでに2年経っている。同日、市役所内部に部長級からなる原子力政策調査部会を発足し開催した。

年が明け2月には、九州電力において2号機の特別点検が開始されている。

4月には、市の部会が川内原子力電所の特別点検の状況を、発電所の中に入り視察している。

10月12日、九州電力は、原子力規制委員会へ運転期間延長認可申請書を提出した。ちょうど1年前の10月12日が延長の申請書を出した日付である。

昨年末、12月27日に九州電力社長が市役所に来られた際に、安全な運転管理と市民への情報公開の徹底を直接要望した。

本年4月は、原子力規制委員会の現地調査が、久見崎町、川内原発内であり、久見崎町地内で規制委員会の委員に対し、厳正な審査及び審査内容、結果の市民への丁寧な説明を直接要望した。

5月、県の動きであるが、県原子力安全・避難計画等防災専門委員会が、県知事

宛に運転期間延長に関する意見書、検証に関する報告書を提出した。あと簡略化、県の専門委員会とするが、知事が諮問する県の専門委員会が、その検証結果を提出したということである。

市長の動きで今年の5月には、東京都内で原子力規制庁の原子力規制部長に対し、厳正な審査と結果の市民への丁寧な説明を直接要望した。

これに連動し今年の6月には、県がUPZ内、原子力防災の原発から30キロメートル以内に9つの市と町があるが、この9市町に、県が原子力規制委員会と九州電力に対する要請書（案）に係る意見照会をした。

6月14日には、県の専門委員会による川内原子力発電所の運転期間延長の検証結果に関する住民説明会が、本市の国際交流センターで開催されている。

合わせて県は、6月から7月にかけて原子力規制委員会と九州電力に対する要請書（案）に関する県民からの意見募集を実施している。

同じ流れで6月30日には、県が川内原子力発電所の運転期間延長の検証結果の概要書を30キロメートル圏内の9市町の全世帯に配布している。

7月14日付けであるが、市として県から求められた要請書（案）に係る県の意見照会への市の回答、意見としては、変わらず国、原子力規制委員会に対しては、①運転期間延長認可申請について、厳正な審査を行うこと。②審査の結果が明らかになった場合には、審査の内容及び結果を市民に分かりやすく丁寧に説明すること。

電気事業者、九州電力に対しては、安全な運転管理及び情報公開の徹底と、市民に分かりやすく丁寧に説明すること。この文言、内容を持って、県知事に市長として回答した。

県は、9市町の取りまとめを含め、7月26日に県知事が、規制委員会に対し、要請書を提出した。

同じ流れで、7月28日には県知事は、九州電力に対して要請書を提出している。

県は今の流れで、県の要請書（案）に対する30キロメートル圏内の関係9市町の意見、先ほど市のことを申し上げたが、そのことと、9市町の意見と県民から寄せられた意見を県が公表している。

9月5日には、原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会の会合、7回目が開催された。

9月13日には、運転期間延長認可に関わる補正申請書を九州電力が国に提出した。

同様の流れで、10月6日には九州電力は、運転期間延長認可に係る再補正申請書を提出しているところである。

以上が、川内原子力発電所の運転延長に関する経過の10月20日現在までの経過である。過去2年間を含む経過である。

3 意見交換

【意見：亀山地区コミュニティ協議会副会長】

亀山地区には、市道だと思いが川内川沿いに道路があり、あちらこちら穴が空い

て傷んでいる。部分的な補修で良いので、道路を見回って堤防沿いの下の道路の修理、予算に限りがあると思うが、できる限りのことをやっていただきたい。

もう1つは、可愛地区は、国道3号に出るのは結構広い道があるので通行しやすいと思うが、亀山地区で堤防沿いにある道路は、昔は太平橋の入り口に出るのに道路がつながっていたから、そちらを利用していた。ところが現在は、通行止めになっている。亀山地区の道路沿いの家は、国道3号に出るのに狭い道路を通過して信号を長く待って出なければならない。当初の計画では、太平橋の根本に河川敷の下の道路から出られるようになっていたと聞いている。それを元通りに実行されるようお願いしたい。

市長

1点目の市道の傷みについては対応するので、この直後、場所を具体的に教えてください。担当の職員と一緒に現場を見ることにする。

それから、中郷五代線から、太平橋の上りについては、初期の設計からコンクリートも固まっているので極めて難しいと思う。また、最初の計画がどうだったかは確認するが、現実的に完成にしているので、すぐに改めるということが極めて難しい。

【意見：育英地区山田島自治会住民】

災害時の避難道路について、10何年前に子どもが鹿児島市内の高校から夕方帰ってきた時に育英小に避難し、それから直接サンアリーナせんだいに避難した。迎えに行く途中の道は、既に水が溜まっていて近づけなかった。もう10何年たっているが、どうなっているか伺いたい。

サンアリーナせんだいに行く避難道路、葬祭場から行く道路は、1つしかない。中郷側から入ったら回り道で、増水時はおそらく通れない。

市長

サンアリーナせんだいを避難所とした時のルートの確認をする。

【追加意見：育英地区山田島自治会住民】

計画的に橋が架かる予定も10何年目である。避難道路は、計画的に入れてほしい。橋もできる予定で、国道267号からちょっとだけ道路ができているが、鶴峯の方が何の進展もない。ローソンがあると思うが。避難道路として中郷町の葬儀社のところだけじゃなく、天辰からもう1つ橋が架かるからといって、下の道路を造って10何年である。どうなっているか。早めをお願いしたい。水が溜まって車でも行けなかった。

未来政策部長

川内川沿いからコンビニを通過して、住宅地に行く道路が狭いということだと思う。橋ができると言われたが、天辰町からの橋の計画は全くない。中郷からサンアリーナせんだいに抜ける時の避難道路の確保、中郷池沿いの道路では、狭いということ

で、中郷の区画整理の区域内を広げたりしたが、そこから先の計画が無いことから、検討材料にはさせていただきたい。いずれにしても、スムーズに避難できるような方策と、水が溜まる場所を確認させていただきたい。

【意見：可愛地区コミュニティ協議会会長】

キッズゾーンを作っていただけませんかと要望していた。市だけではなく、警察も関連があるだろうと思うが、鹿児島県でも非常に珍しいと言われているキッズゾーンの、その後の状況はどうか。

もう1点は、スクールガード・リーダーの立ち上げは、どうなっているのか。

市民安全部長

キッズゾーンは、防災の中で、現在調整中で、いただいた意見に対して回答できてない状況である。

今日ご質問いただいた2点目のスクールガード・リーダーも併せて確認をし、改めて現状について回答したい。